

# 日本の医療文化と 「Nurse Practitioner」

## 2 NPによる医療の生産性向上には魂も必要

連載  
寄稿

(毎週水曜日)



大阪大大学院医学系研究科  
医療経済産業政策学教授  
田倉智之

前回は、NPの導入にかかわる主な論点として「生産効率」「医療技術」「機能変遷」の3つを挙げましたが、今回は医療の生産性を変革する考え方について見ていきます。

### ■わが国の生産性関連の議論とは

NPの生産性に関連する最近の議論を拾ってみると、診断、検査、処方、処置、手術などの診療行為の補助や看護師の自立的な対応について、次のような意見が見られます。プライマリケアの領域では、QOLや満足度などの改善は医師と比べても遜色なく、逆にコミュニケーションの強化で、患者・家族のコンプライアンスの改善などがより円滑にな

ると期待されます。また、急性期・周術期の領域では、医療技術の革新により医師以外でも熟練の医療専門職であれば十分な品質・成果が期待できるとして、PAなどの活躍が待たれております。例えば、検査のオーダーや投薬を病態の変化に則してきめ細かく対応したり、特定の処置や手技を必要に応じて迅速に介入させたりと、多忙な医師による診療密度の低下や診療過程の待機を減らし、費用を抑制しながらも診療成果を確保することで、高価な医療資源(医師など)を有効活用させる利点が挙げられます。一方で、「新たな責任が生じることを嫌がり必要十分な供給は期待できない」に始まり、そもそも「看護師自体にも偏在や供給不足があり、その解消を優先すべき」、さらに「人件費単価が低くても所要時間が長くなり結局は費用面で優位性はない」、また「現行の診察や処方などの診療報酬上の評価は低いため、NPのインセンティブは小さい」という懸念もあります。

これらの意見はともかく、医師の単なる診療代行というレベルではなく、医療システムの変革を伴うことがNP導入の目的であれば、技術論にとどまらず、そのあり方自体についても検討が望まれます。つまり、診療を取り巻く環境の変化に則して従来の専門職の職務や権限の枠組みを発展的に強化するには、医療の存在意義は何か、という原点に立ち戻る必要があるかもしれません。

### ■生産性を変革するということとは

生産性の変革は、古今東西、事業全体の最適化を指向する中で、技術の革新と思想の発展を織り交ぜながら進められてきたのが特徴的です。例えば、20世紀初頭の内燃機関の進歩と大量消費という新たに花開いた社会文化に伴う需要を背景に、車社会が創出されています。これを支えたのが、米国の自動車産業の大量生産方式でした。しかし、1980年代以降の社会変遷(顧客ニーズの変化、新たな競合の出現など)に対して、この方式の生産性は悪化の一途をたどり、根本的な改革が求められるようになります。そこで彼らは、競争力が増す日本の生産システムを物作りの思想も含めて意欲的に導入し、生産効率の改

善を試みました。この時、彼らは新たな生産技術やシステム論はもとより、それを生かすチーム作業の精神も導入しております。しかし、ものまね的にコピー導入を進めた企業は、結局、改善に失敗しました。

この例えがNPの議論へ与える示唆は、社会の変遷や技術の革新によりシステムが移り変わる時、その生産性の改善には思想(魂)の変化も同時に必要なことにあります。つまり、汎用的な機能に置き換えながらも期待どおりに成果を産み出すには、根っこにある文化も変える必要があります。表層的に機能を置き換えるだけでは顧客価値を得られず、失敗してしまうことを他産業の歴史が示しております。NPの導入もまた同様であり、形のみを整える機能代行にとどまらず、慣習などの医療文化の変革も必要になるでしょう。医療技術の発展などにより一定の知識と技能を有する医療専門職が、一部の医療行為を簡便かつ安全に遂行する機会を得たことがNPの検討の発端の1つです。しかし、技術的な検討が盛んになっても、NPの存在意義にかかわる議論が少ないのは気掛かりです。

今後、NPが医療システムに新たな付加価値をもたらすためにも、技術の定義や提供する体制について論じられることが望まれます。今回は、このテーマについて考えてみます。

#### profile 田倉 智之氏 Takura Tomoyuki

1992年に北海道大大学院工学研究科を、2006年に東京女子医科大大学院医学研究科を修了し、外資系経営戦略ファームのMG、大阪大医学部の招聘准教授などを経て、10年より大阪大大学院医学系研究科の医療経済産業政策学教授、現在に至る。医療価値などの研究の傍ら、経済産業省のHFSP制度評価や内閣府の少子高齢化の財源再建に関する国際共同研究などの委員、また日本人工臓器学会や日本心臓リハビリテーション学会の評議員を歴任している。